

巻頭言

学際的対話が拓くビジネスモデルの未来

田中 謙司

日本ビジネスモデル学会 会長

社会課題の複雑化と市場構造の転換が同時進行する中で、「どのようなビジネスモデルが次の時代の価値創造を導くのか」という問いは、企業や社会にとって一層重要な意味を持つようになっています。日本ビジネスモデル学会は、価値の創造・提供・獲得の仕組みとしてのビジネスモデルを、学術と実務の双方から探究し、その成果を社会に還元することを使命として活動してきました。本誌に収録された諸論考や報告は、そうした学会の問題意識を、具体的な産業や実践の文脈の中で深化させた成果であると言えます。

私はこのたび、前任の平野正雄会長より会長職を引き継ぎました。前会長のもとで本学会は、理論と実務を往還する実践的な学会として基盤を固め、産業界に開かれた議論の場を築いてきました。その理念と成果を継承しつつ、学際的な論点での社会実装と価値創造に向けたビジネスモデル研究の発展の場としていきたいと考えています。

本号では、創造産業とAIを題材として、ビジネスモデル変革の先行事例が多角的に議論されました。コンテンツ産業は、デジタル技術の進展とファンダムの拡張によって、価値創造の主体や価値循環の構造を大きく変化させてきました。作品やIPを起点に、ファンの参加や二次創作、プラットフォームを介した流通が重なり合うことで、従来の「生産者一消費者」という関係を超えた参加型の価値創造モデルが形成されています。これは、ビジネスモデル研究において「誰が価値を生み、どのように共有されるのか」という根源的な問い合わせを改めて浮き彫りにするものでした。

また、AIといった最先端技術を議論したテーマでは、それ自体が価値を生むのではなく、組織設計、意思決定プロセス、制度やガバナンスと結びつくことで初めて社会に定着すること、そこでは、ビジネスモデルの変化が重要な役割を担っていることなどが議論されました。創造産業における推し活やファンダムの可視化も、AIによる行動理解や最適化も、いずれも価値循環の構造を再構成する試みであり、ビジネスモデル研究の核心に位置づけられます。収録されている平野前会長との対談「ビジネスモデル最前線：激動の時代を読み解き、未来を実装する知」でビジネスモデルの変遷と今後の方向性が総括され、本学会がこれらのテーマを連続的に扱う意義は、まさにこの学際性と連続性にあります。

さらに、本誌には研究発表、講演などの多様な議論内容も収録されています。これらは、理論的探究から実務的示唆、人材育成への応用に至るまで、ビジネスモデル研究の広がりと奥行きを示すものです。本学会は今後も、産学官の知をつなぐ「協創のプラットフォーム」として、変化の時代にふさわしいビジネスモデルの探究と社会実装に取り組んでまいります。

本号が、読者の皆様にとって新たな視座と実践への示唆をもたらし、次なる研究と行動への出発点となることを期待し、巻頭の言葉といたします。